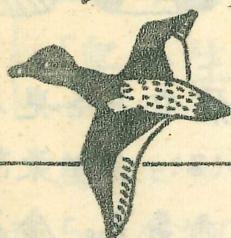


# すずがも通信 No.4

1980.12.16



行徳野鳥観察会友の会会報

## 巻頭言

### 友の会の一年をふりかえって

すずがも通信の号をおとどけしてから、早くも一年がたちました。その間に、傷病鳥問題も解決し、職員が2名の増加となりました。また、定期・不定期のアルバイト者使用も可能になりました。野鳥保護区の運営は、これまで、時間的にも経済的にも、一心の軌道に乗ったものといえましょう。

他方、それに反比例するわけでもないでしょうが、行徳地区の自然環境は、月を追い日を重ねて悪化の一途をたどっています。市川市妙典地区に、わずかに残された、旧新浜のおもかげも、失われつつあります。同地区の市街化調整区域指定解除も、時間の問題だといわれています。浦安町一帯の埋立地に、一時的に発生したかに見えた自然的状態も、埋立本来の目的に向った造成のうねりの中に、姿を消しつつあります。京葉港・幕張地区の埋立地も例外ではありません。

こうした大きな流れの中で、自然保護の側に残された新浜野鳥保護区の任務は大きいものだと思います。数多くのボランティア活動に支えられて、大井埋立地も保護側の手にわたりつつあります。谷津の干潟も何とか保全しなくてはなりません。東京湾最奥部に点としてのみ存在を許された、これらのわずかな自然を、何とか、鳥たちのために役立ててゆきたい。これを、私たちの共通の願いとしたいのです。

# 行事案内

●初日の出とスズガモの帰還を見る会 大きな初日と、頭上をすりぬけて帰ってくる数万羽のスズガモの群は圧巻です。今年は元旦に、野鳥観察舎が開きませんので、次の会主催です。集合は塩浜岸壁に6:00、これより遅くこられても帰還は見られませんから、ご注意ください。解散は、野鳥観察舎前、8:00の予定です。防寒具を充分に!

●スズガモの飛立ちを見る会  
スズガモの群は、夕方東京湾に飛立って行きます。金属的な羽音と、夕焼けにシルエットとなつて織りなす大群のマスゲームは忘れ得ぬ思い出となるでしょう。帰り道、コミミズクが草の上を飛ぶかもしれません。1月18日、2月15日の5:00観察舎玄関前に集合、約2時間の予定です。寒いので防寒具を充分にして下さい。

## アメリカ・I·C·F訪問の報告

百瀬邦和

今年3月より8月までの6ヶ月間、アメリカのヴィスコンシン州にあるI·C·F(国際ツル賊団)の本部に行ってきました。I·C·Fは、ツル類の保護のための様々な活動をすることを目的にして、1973年にジョージ・アーチボルトを中心へ設立された民間団体です。そこでは活動の一環として、種の銀行の役割を果たすために全種類のツルを飼育し繁殖させることがあります。I·C·Fは現在、現生する15種類のツルのうちオグロヅルを除く14種類のツルを飼育して、その内9種類が繁殖に成功しています。私はそこでボランティアとして働き、アーチボルトと一緒に生活しながら飼育のこと、人工受精のこと、さらには各種のツルに関する勉強をしてきました。日本は世界でも有数のツルが多く見られる国であるにもかかわらず、ツルに対する知識や理解はまださだ不充分で\*

2(018)

観察してみよう  
ニコ・ティンバーゲン著  
「鳥の生活」からのぬきがき

鳥はどうやって食物をとるのだろう—よく観察すると、鳥たちの食物のとり方はさまざま、しかも、たくみな方法だということがわかってくる。食物を調理する道具は、主にケチバシである。アオウキクサの中にケチバシを突っこんでいるカモを近くで観察すると、ケチバシの中に、えさと一緒に入ってきた水を、両側についでいるふるいから、さっさと流したしているのがよくわかる。

またカモメは、貝をくわえて、高い所から落してつぶす。ツグミが石にぶつけ、カタツムリの殻を

割るもの、よく見られる事実である。(ケチバシにふるいをついている。)

\*あることもよく判りました。今年発足した、I·C·F(国際ツル賊団日本支部)としてもそれらの問題に取り組んでいきたいと思っています。

半年間の滞在の間に、野生保護区や博物館のような施設のいくつかを見学する機会を得ました。それらの多くは極めて規模も大きく、アメリカならではのものですが、施設の運営のし方や利用者への便宜などについて感心させられる面が多くありました。ボランティア活動のし方とか、その目的、またアイデアや提案を積極的に出し合い生かしていくところなどは、我々も見習ってゆくところがあるように思います。

それらについては観察舎や次の会の活動にも参考にならうと思いますので、いずれ発表の機会をもちたいと思います。

〈編集注〉日本で見られるツル——

クロヅル、タンチョウ、ナベヅル、カナダヅル、マナヅル、ソテグロヅル、アネハヅル、

3(019)

## すずがも通信

### ●スペイン国王ご夫妻来館

スペイン国王、ファン・カルロス陛下と、ソフィア王妃が、10月30日、野鳥観察舎と新浜鴨場を訪問された。ご案内役には、日本国の大太子ご夫妻と姫路の宮士まとがあたりました。千葉県からは、川上県知事、高橋市川市長がお出でに出了。

国王ご夫妻は、観察舎では鳥と公告との関係をご質問になりましたよなど、自丞保護にご関心の深さとニラが見られました。

また、これを機会に、保護区周辺の環境整備がなされましたことは、喜こばしゃことです。

### ●観察舎で見られる鳥

スズガモ 5万羽

コミミズク(タ方)

トラフズク(タ方)

トモエガモ } 少数  
ヨシガモ }

ダイゼン

チユウヒ

オジロワシ 11月29日通過

アリスイ(越冬か?)

### ●年末年始の観察舎の業務

12月29日から1月3日は開館します。1月5日は月曜日ですから休館日です。

また、12月28日、1月4日は、15時で閉館します。

例年と違いますので、皆様ご注意下さい。

●野鳥観察舎だより4号ができました。12月5日発行で本紙とともにみどりします。

### ●編集後記

一年間というお約束通り、この号で編集の任をおろしていただきます。諸般の事情から、定期発行がかなわず、会員の皆さまには、ご迷惑をおかけいたしました。これも、地元の行徳に在住していらないのに編集をお受けしたこと、大きな理由でした。

来年度からは、行徳在住の田久保晴孝氏が編集担当になりますことが決っています。新らしい編集方針で、楽しい会報が皆さまのお手許にとくことになるでしょう。

すずがも通信 NO.4

発行人 亀谷栄

- 1980.12.16 - 事務局 鈴木有

編集人 志村英雄・真澄